

天竜川の鉄索（てっさく）

利用者さんの故郷の話を伺うのは介護の仕事の一部でもあり、私自身の楽しみでもあります。Mさん（99歳女性、長野県下伊那郡大島出身）は「昔のことはよく覚えてるんだけどねえ」と言いながらのお話は、こんな風でした。

Mさん…天竜川に近かったから、子供の頃、ゴザを持って行って両親と兄妹みんなで螢を見たよ。楽しかったねえ。

私…水がきれいなんでしょう！

Mさん…きれいだよ。きれいじゃないと螢はおらんでしょう。天竜川の川下りも有名で、一時間に一本ずつ船が出とる。船頭さん、西洋人みたいな変わった帽子を被っててねえ。あれは可笑しかった、ハハハ。川に「てっさく」があって、それが行ったり来たりするのが面白くて、子供の時は川に行っちゃ、ず～っと見てたよ。

「てっさく」って何?? 調べると「鉄索」=ケーブルに吊るした籠に荷物を積んで、山間部や川の上空を行き来させる昔の輸送手段と判明。昔の人は偉い、必要は発明の母。（ロープウェイをご想像ください）。今、国内には殆ど残っておらず、無論、天竜川の鉄索も今は昔。

他日、鉄索のことをまた尋ねると。

Mさん…籠は竹で編んだタライほどの大きさだったよ。ウチは果樹園があったからその中に父が朝、梨や林檎や桃を積んで向こう岸に運んどった。向こうが大鹿村で、そっちから空の籠が返ってくる。（鉄索の）線は2本あった。行きと帰り。

私…大鹿村って歌舞伎が有名なところ?

Mさん…村の人が分厚い衣装を着て、顔を真っ白に塗って歌舞伎芝居するよ。面白いよ。

Mさんの故郷の記憶は鮮明で、私にも鉄索の竹籠に山積みになった桃がゆらりゆらりと向こう岸に遠ざかって行くのが見えるようです。Mさん、また故郷の旅、ご一緒しましょう。これからもお元気で。

（グループホームえん／長谷川洋子）



絵／ケアサポートえん馬場敏美